



発端、京の公卿・二条家の繁栄 第1巻 第1段



二条兼家の妻は鞍馬寺に参詣し、毘沙門天の夢告を得る 第1巻 第3段



若君に産湯をとらせて射払いをする 第1巻 第6段



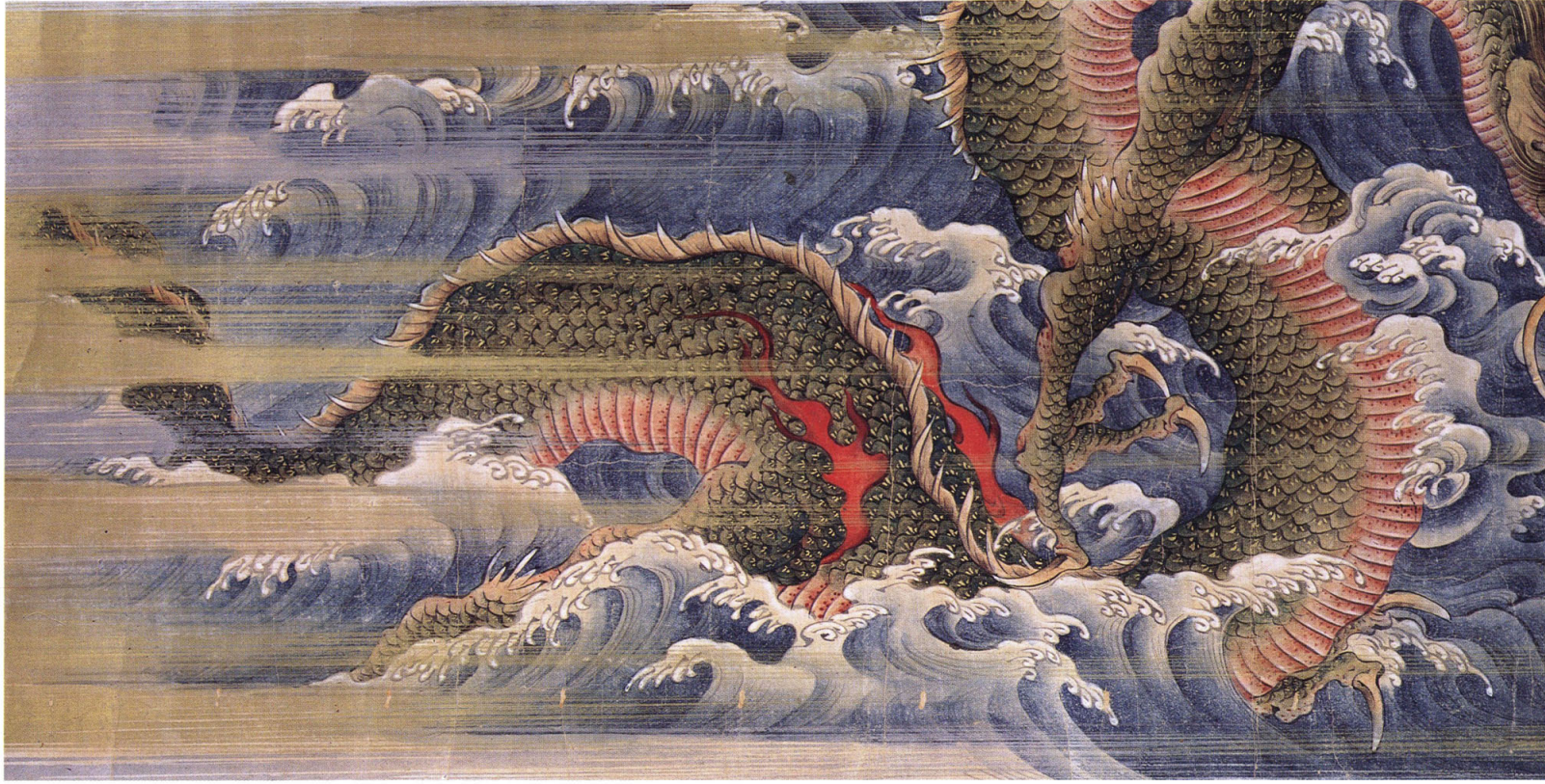
若君の誕生 第1巻 第5段



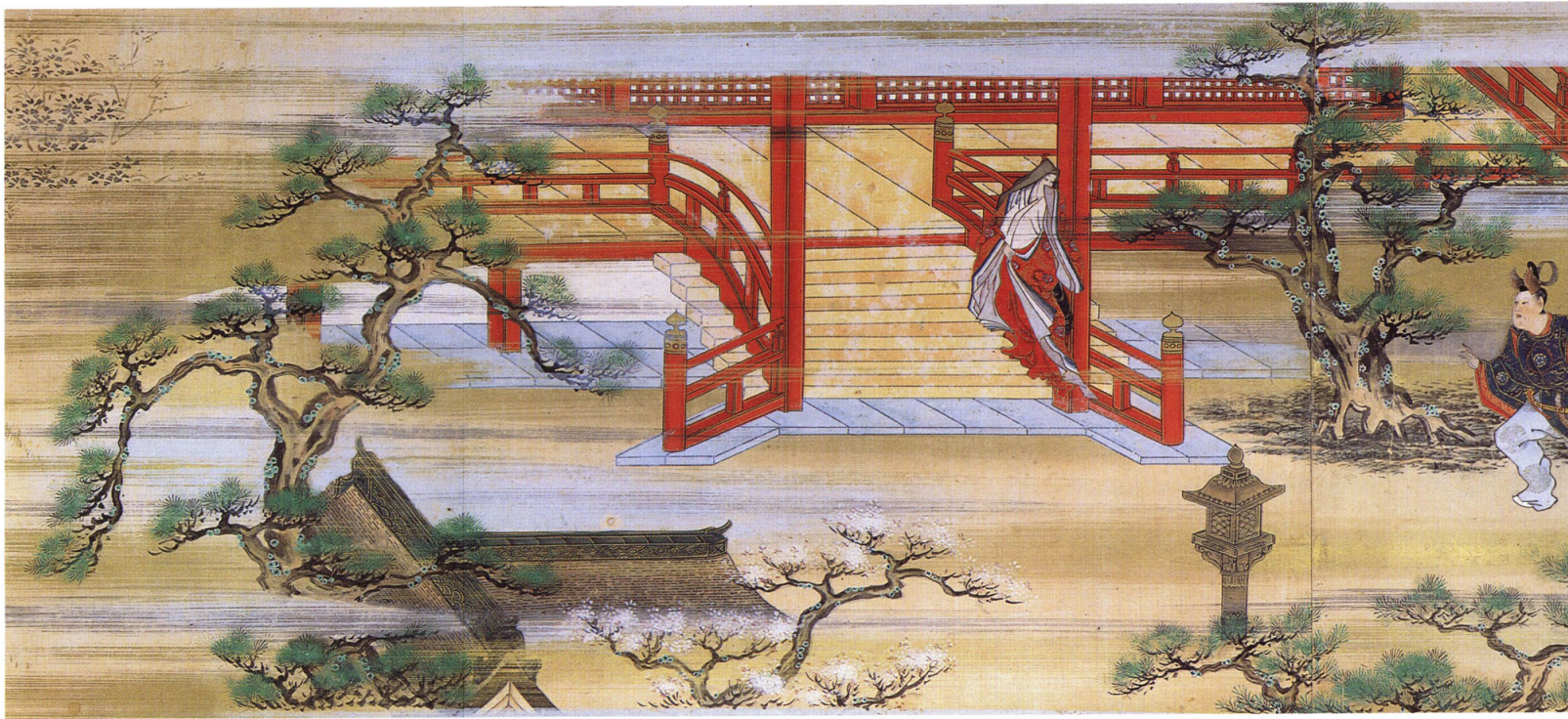
小栗は三年間に七十二人の妻を返してしまう 第2巻 第5段



有若は石清水八幡の神前で常陸小栗と命名される 第2巻 第3段



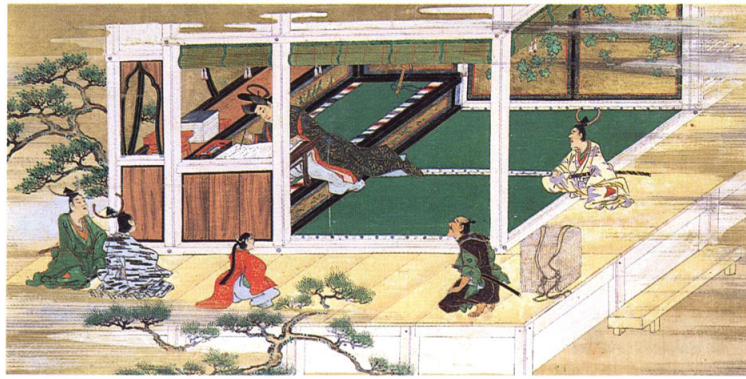
深泥池の大蛇が小栗を見初める 第2巻 第9段



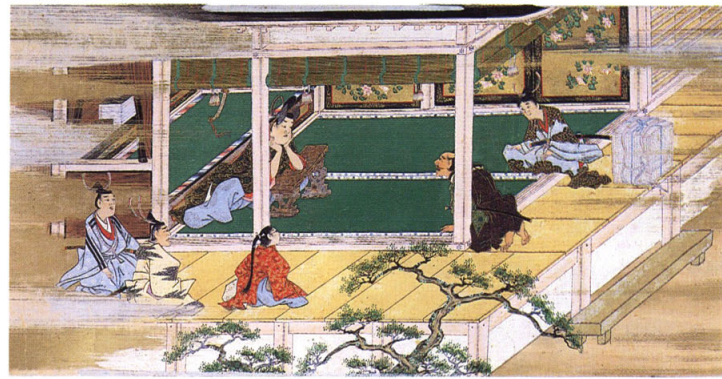
大蛇は美女に変化し、小栗を誘惑する 第3巻 第1段



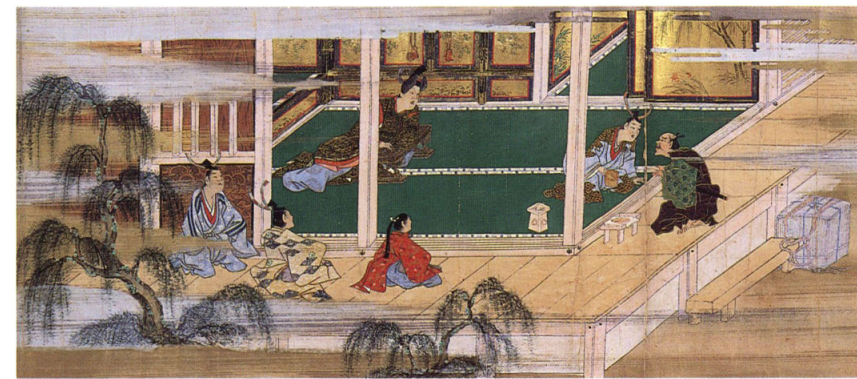
小栗は常陸国へ流され、判官となる 第3巻 第6段



小栗は照手へ恋文を書く 第4巻 第3段



左衛門は小栗に照手のことを話す 第4巻 第1段



家来は左衛門に小栗の妻選びを依頼する 第3巻 第10段



後藤左衛門が小栗の館を訪ねる 第3巻 第8段



照手は文を読み、自分宛の恋文と知る 第5巻 第2段



女房は照手に小栗の恋文を渡す 第4巻 第11段



左衛門は照手の館に赴き、小栗の恋文を差し出す 第4巻 第8段



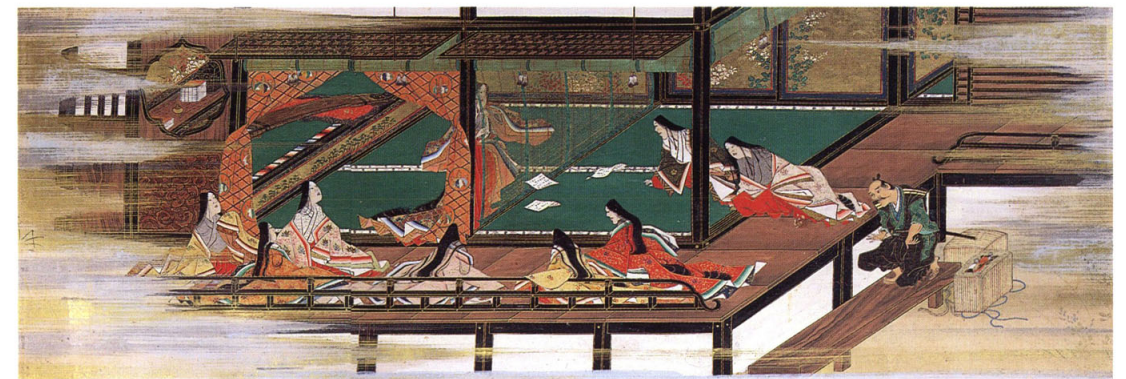
照手は小栗への返事を書く 第5巻 第7段



小栗と家来は左衛門の案内で横山の館へ向かう 第5巻 第14段

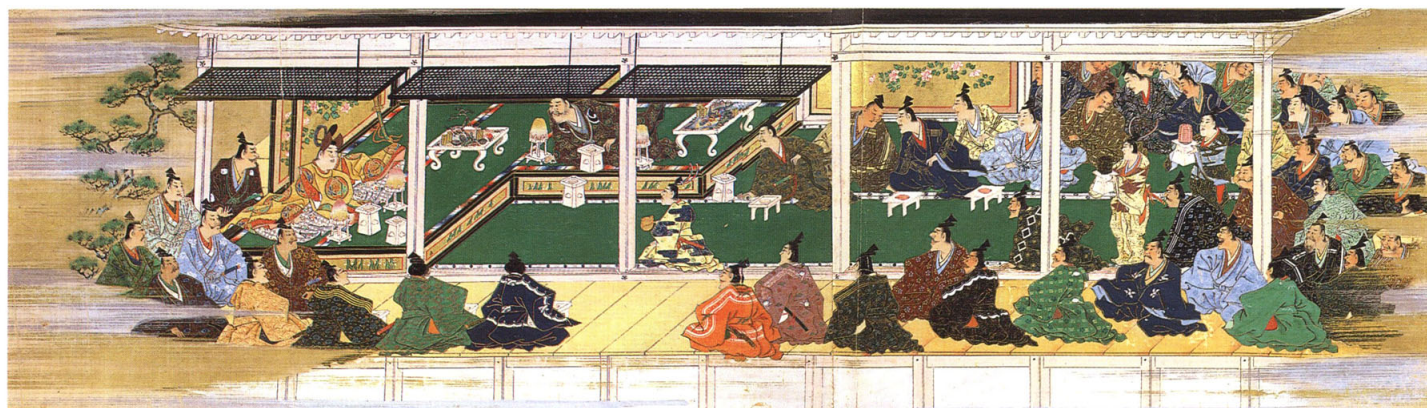


照手は父の怒りを恐れ、恋文を破り捨てる 第5巻 第3段





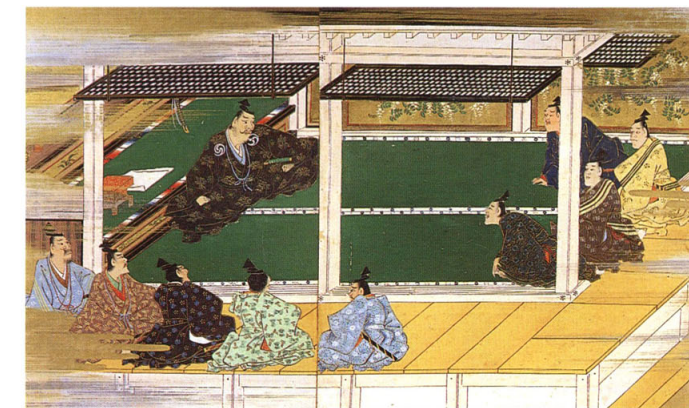
小栗は横山に許しなく婿入りし、照手と結ばれる 第5巻 第18段



横山は小栗に鬼鹿毛への乗馬を所望する 第6巻 第7段



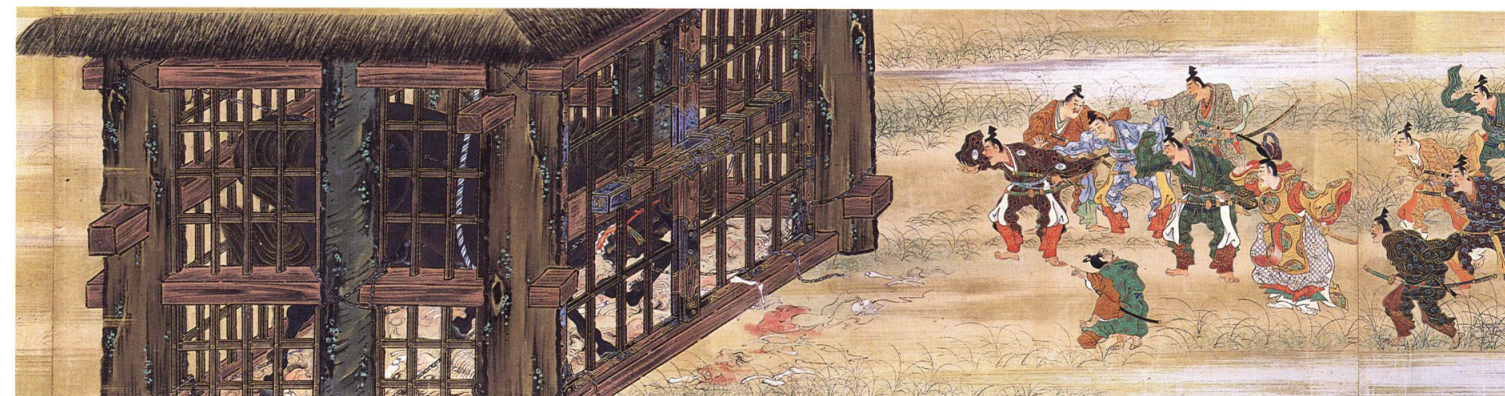
小栗は横山からの招きの使者を喜んで迎える 第6巻 第5段



横山一族は小栗を鬼鹿毛の犠牲にしようとする 第6巻 第3段



小栗は鞍も着けず、繋いであった鎖を手綱にして乗馬する 第6巻 第18段



鬼鹿毛の厩周辺には、人骨などが散乱している 第6巻 第10段



小栗が鬼鹿毛を乗りこなす様子を見て、横山の家来たちは驚く 第7巻 第3段



小栗は鬼鹿毛を基盤の足の上に乗せる 第7巻 第9段



小栗は鬼鹿毛を松の木に乗り上げる 第7巻 第7段

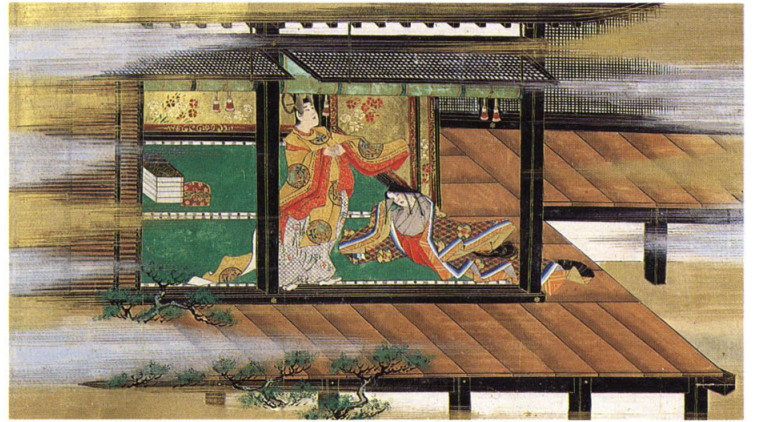


小栗と鬼鹿毛は主殿の屋根を駆ける 第7巻 第5段



横山の酒宴に招かれた小栗に、照手は小栗一行が死装束で北に向かう不吉な夢を見た話をする 第8巻 第9段





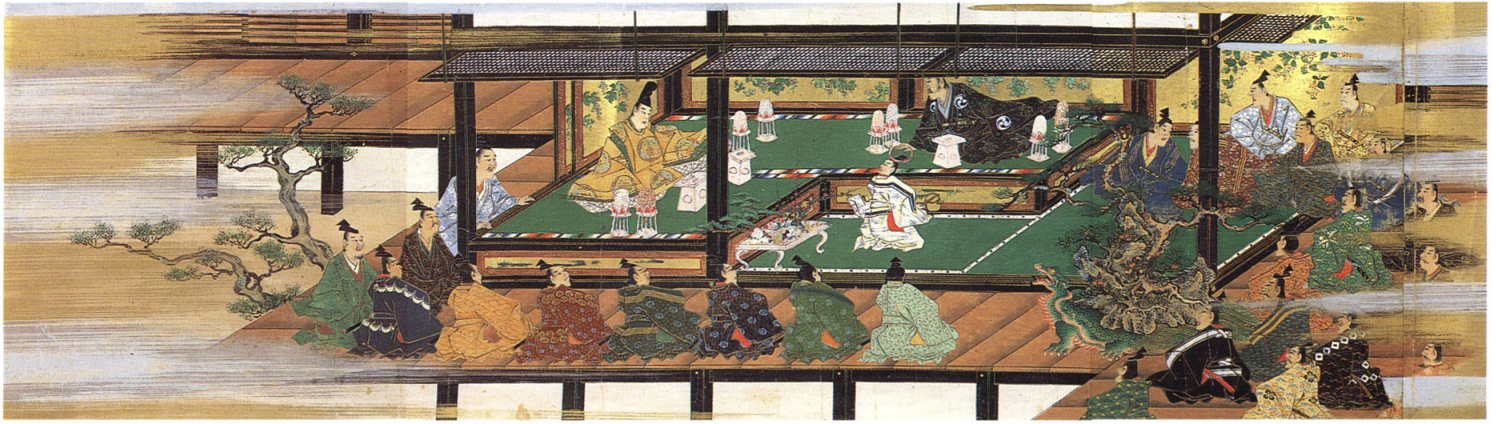
小栗は夢違の呪文を唱える 第8巻 第10段



横山に飲酒の罪は自らが負うと言われ、小栗らは盃を取る 第8巻 第15段



横山は小栗を土葬に、家来を火葬にする 第8巻 第20段



小栗は横山の飲酒のすすめに、来宮信仰の日なのでと断る 第8巻 第12段



小栗らは毒酒によって次々に倒れ死ぬ 第8巻 第17段



照手は自ら半輿に乗り、相模川に向かう 第9巻 第1段



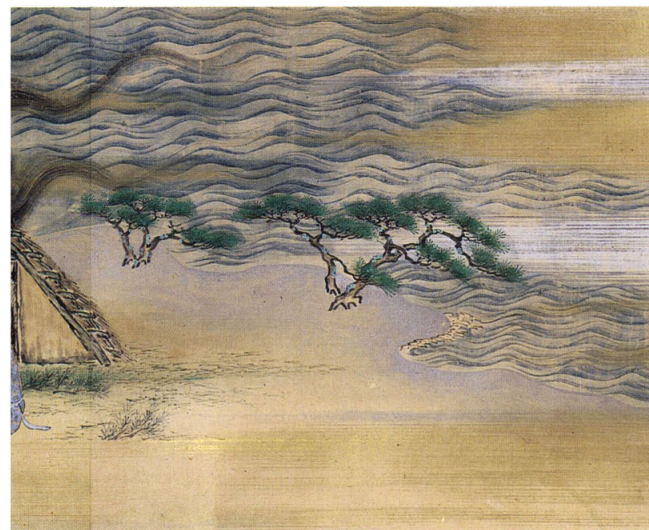
照手は小栗の死と自分の運命を知って悲嘆する 第8巻 第23段



照手らは相模川のおりからが淵に着く 第9巻 第2段



太夫の妻はなおも美しい照手に腹立ち、売り払ってしまう 第9巻 第14段



太夫の妻は照手を妬んで釜に入れて燻すが、照手は千手観音の加護を受ける 第9巻 第13段



観音の加護でゆきとせが浦に漂着した照手を、太夫の長が引き取る 第9巻 第9段



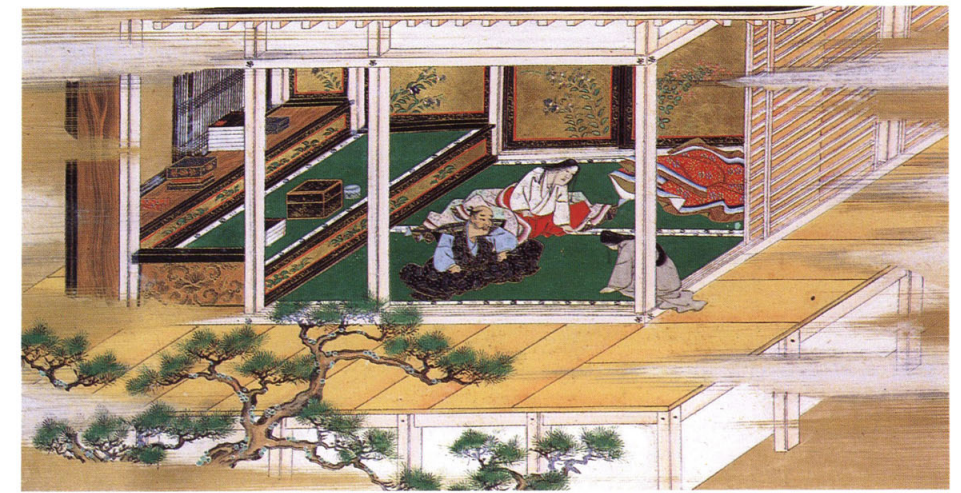
もとをりこまつ



売られていく照手の行方一よしはら、さまたけ、りんかうし、宮の腰 第10巻 第1~2段



照手は常に千手観音の加護を受ける 第10巻 第17段



美濃国青墓の宿に売られた照手は、水仕と遊女のいずれの勤めかを選択させられる 第10巻 第11段



照手は常陸小萩と名付けられ、百人の遊女の世話を命ぜられる 第10巻 第16段



毒殺された小栗と家来は閻魔大王のもとへ送られる 第10巻 第19段



大王は小栗を娑婆に戻すため、杖で虚空を打つ 第11巻 第2段



大王は、娑婆へ戻す小栗の胸札に藤沢の上人へのごとづてを書く 第11巻 第1段



上人は小栗に餓鬼阿弥と名付け、この車を引けば供養ができると胸札に書き添える 第11巻 第5段



藤沢の上人は上野が原で餓鬼姿の小栗を見つける 第11巻 第4段



餓鬼阿弥の道中一湯本 第11巻 第12段



相模原では、横山家中の侍も照手の供養にと車を引いた 第11巻 第7段



富士の裾野



餓鬼阿弥の道中一吉原 第11巻 第18～19段



鞠子の宿

浅間神社



駿河の府内

餓鬼阿弥の道中—江尻の細道 第12巻 第3~6段



とうこの地蔵

鳴海



三河の八橋

餓鬼阿弥の道中—矢作の宿 第12巻 第24~27段



照手は狂女の姿に擬して車を引き、垂井の宿に着く 第12巻 第42段

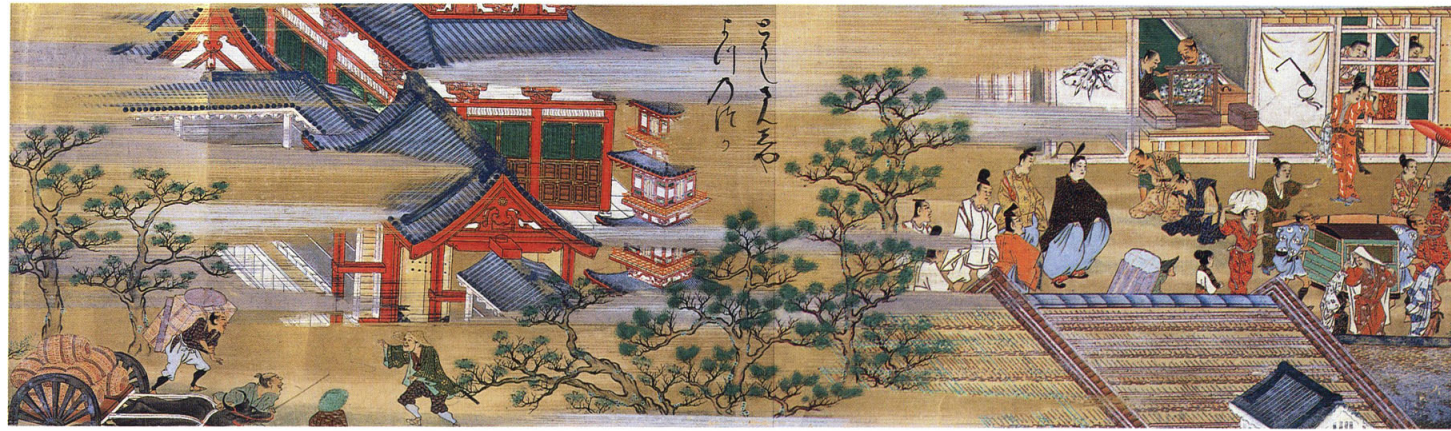


餓鬼阿弥は美濃国青墓の宿で照手に見つけられ、照手は小栗の供養に車を引きたいと希望する 第12巻 第36段



餓鬼阿弥と照手の道中—瀬田の唐橋 第13巻 第5段

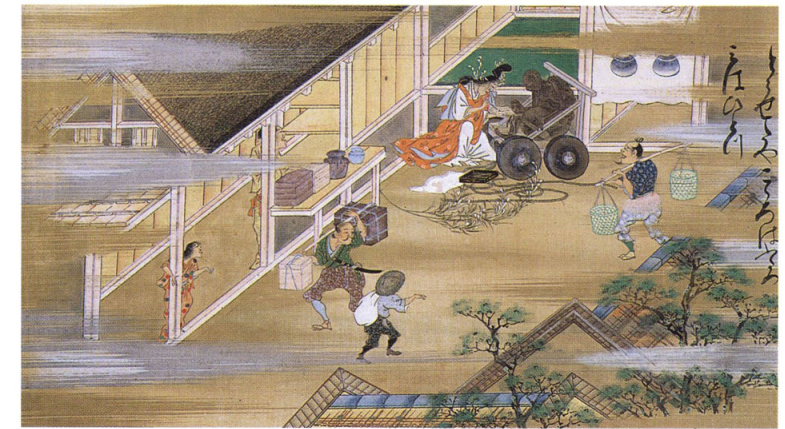




東寺、さんしや、四つの塚



餓鬼阿弥の道中一都 第13巻 第15~16段



照手は、本復の後は常陸小萩を訪ねるよう、胸札に書き添える 第13巻 第10段



わたなべ、南部

小松原

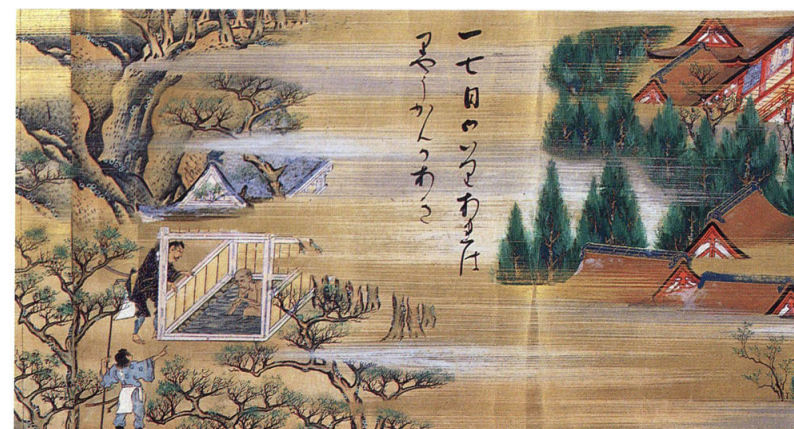


堺の浜

餓鬼阿弥の道中一住吉四社 第13巻 第26~29段



餓鬼阿弥は四十九日めにもとの小栗の姿に戻った 第13巻 第37段



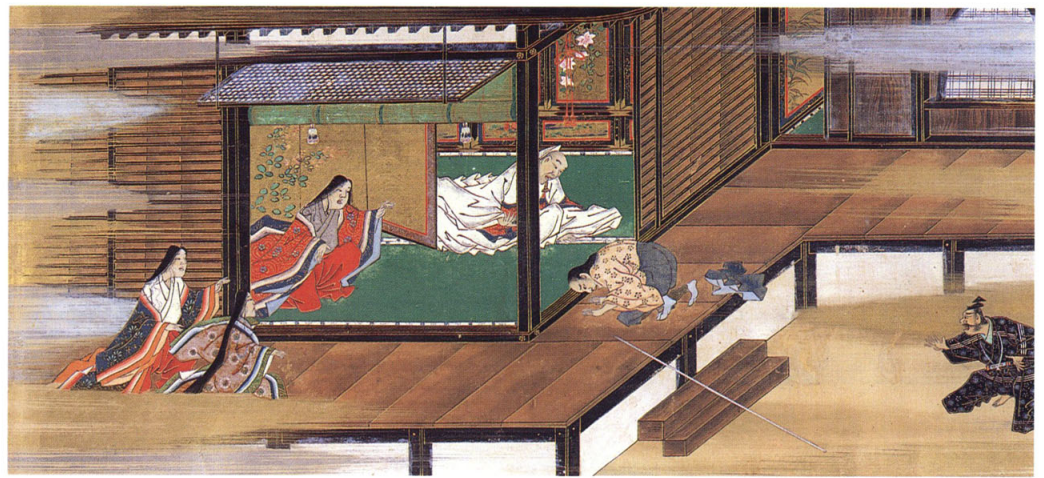
餓鬼阿弥は四百四十四日目に熊野本宮湯の峯に入り、七日めには両眼が開いた 第13巻 第34~35段



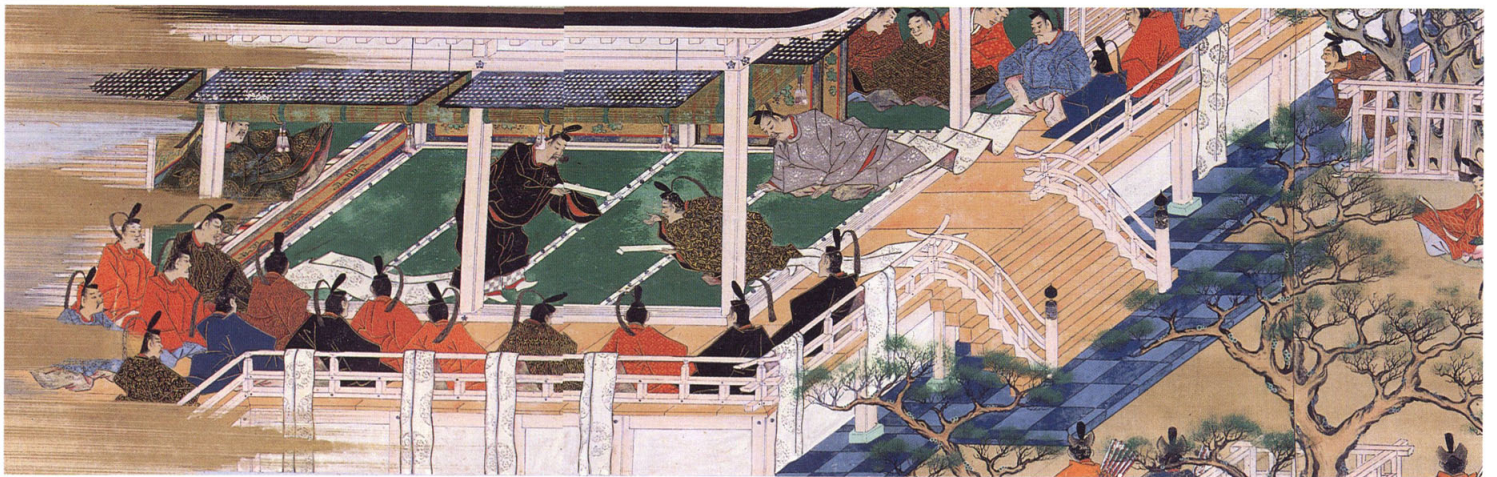
餓鬼阿弥は大峯山中を行者に背負われて進む 第13巻 第33段



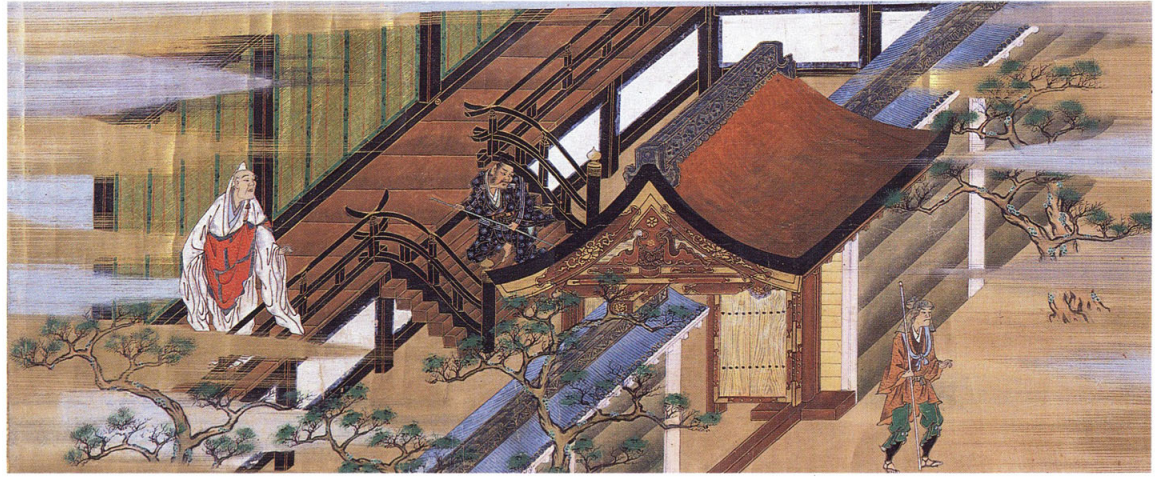
小栗は熊野三山で修行に入り、熊野権現に二本の金剛杖を貰う 第13巻 第38～39段



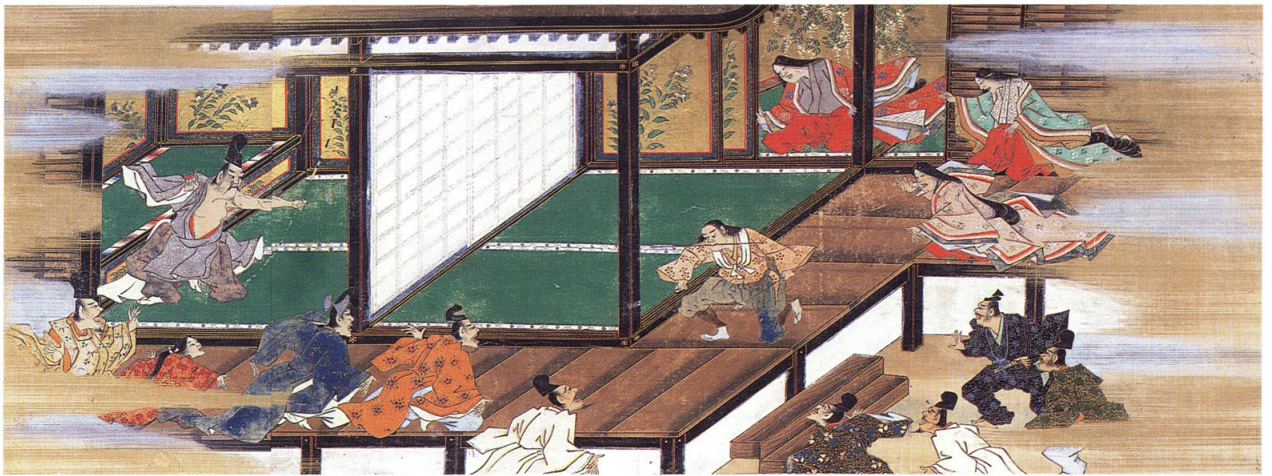
小栗は母に名乗り出て、三年間の勘当の許しを求める 第14巻 第3段



喜びの対面をした父子は帝の館へ参上し、小栗は五畿五国と美濃国を賜わる 第14巻 第8段



小栗は都へ戻り、兼家の館前で、伯父御坊が小栗を見かけて呼び返す 第13巻 第41段



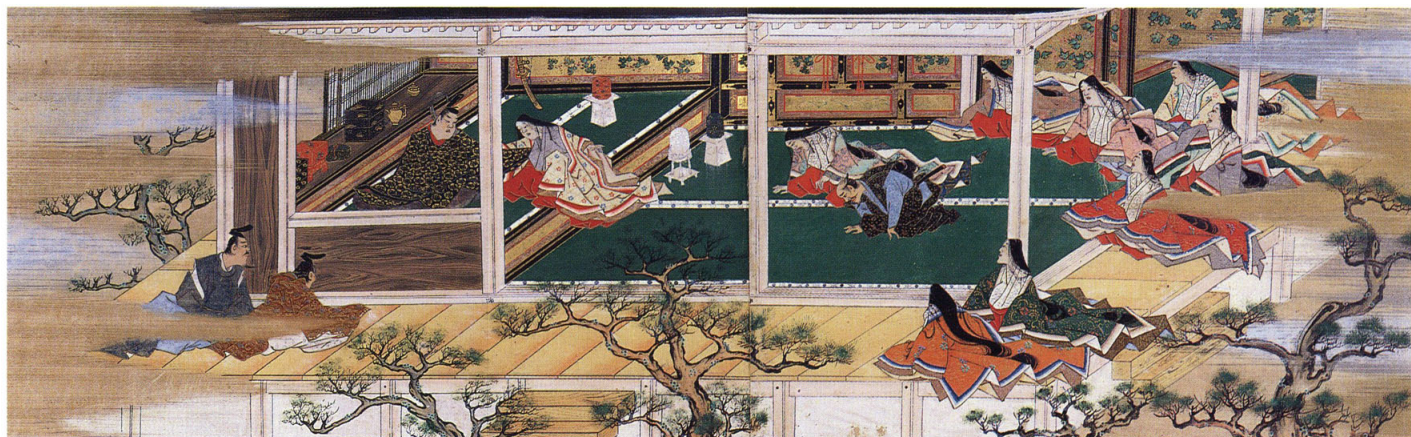
兼家は小栗と確認するため、障子の向こうから矢を放つ 第14巻 第5段



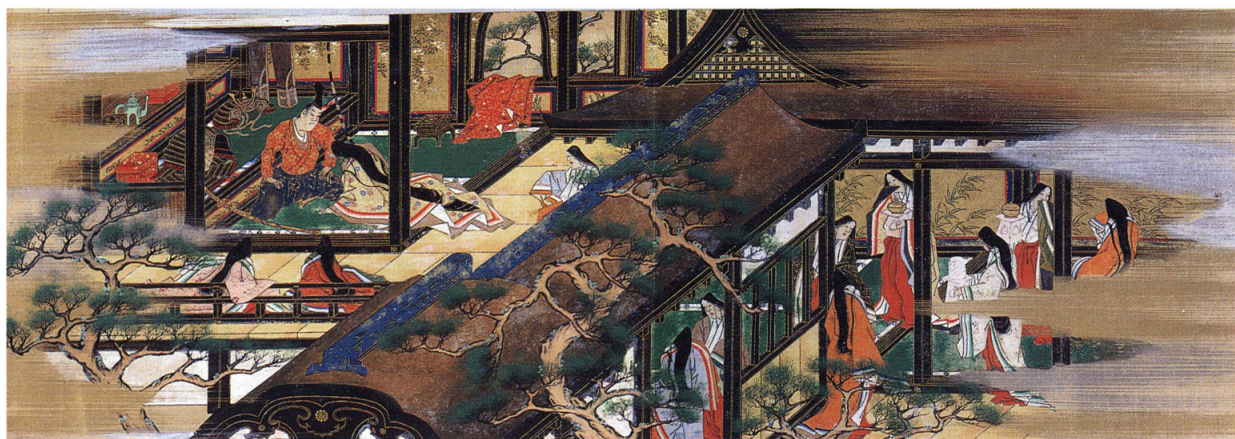
美濃国の君の長の館を訪れた小栗は、君の長夫婦に常陸小萩に酌に来させるよう命ずる 第14巻 第13段



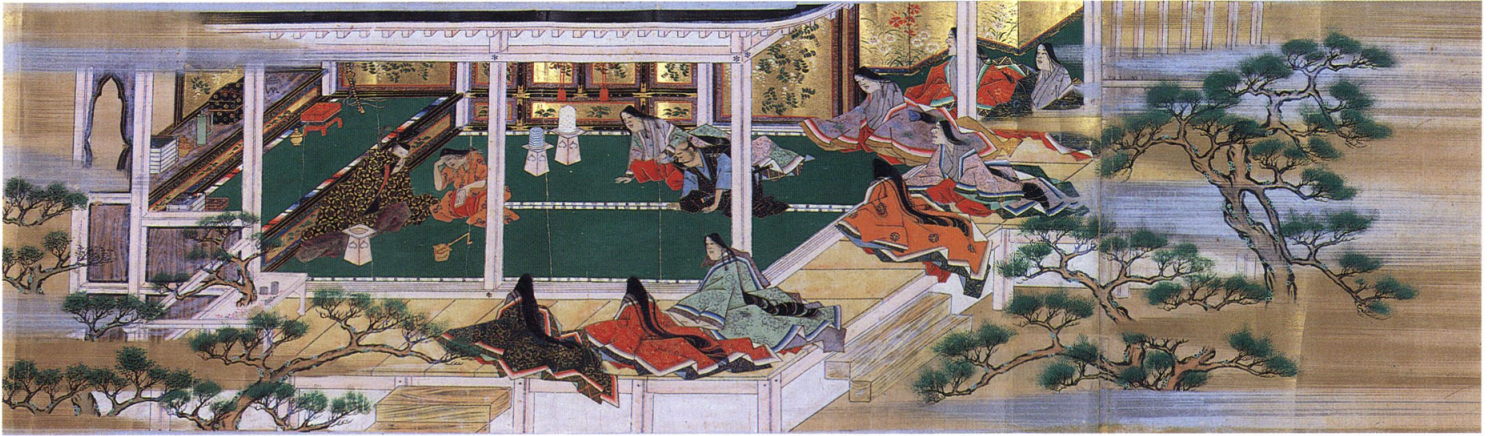
照手は水仕の姿のままで酌に向かう 第14巻 第18段



照手は小栗に、君の長を罰しないで、むしろ褒美をとりなす 第15巻 第1段



小栗は、照手が父への逆罪を嘆いたので、照手に免じて横山を許す 第15巻 第6段



小栗と照手は互いと分かって、逢えたうれしさのあまりに号泣する 第14巻 第20段



常陸に戻った小栗の攻撃に、横山は備えをする 第15巻 第5段



小栗は横山が送ってきた黄金で御堂と寺を建て、鬼鹿毛を馬頭観音として祀る 第15巻 第11段



小栗はゆきとせが浦の姥を鋸引きに処し、太夫には褒美を与える 第15巻 第14段



小栗は横山の三郎を荒貨に巻いて西の海に沈める 第15巻 第13段



小栗は常陸国で富み栄え、八十三歳で大往生する 第15巻 第16段



小栗は往生して、あらゆる神仏に供養される 第15巻 第17段



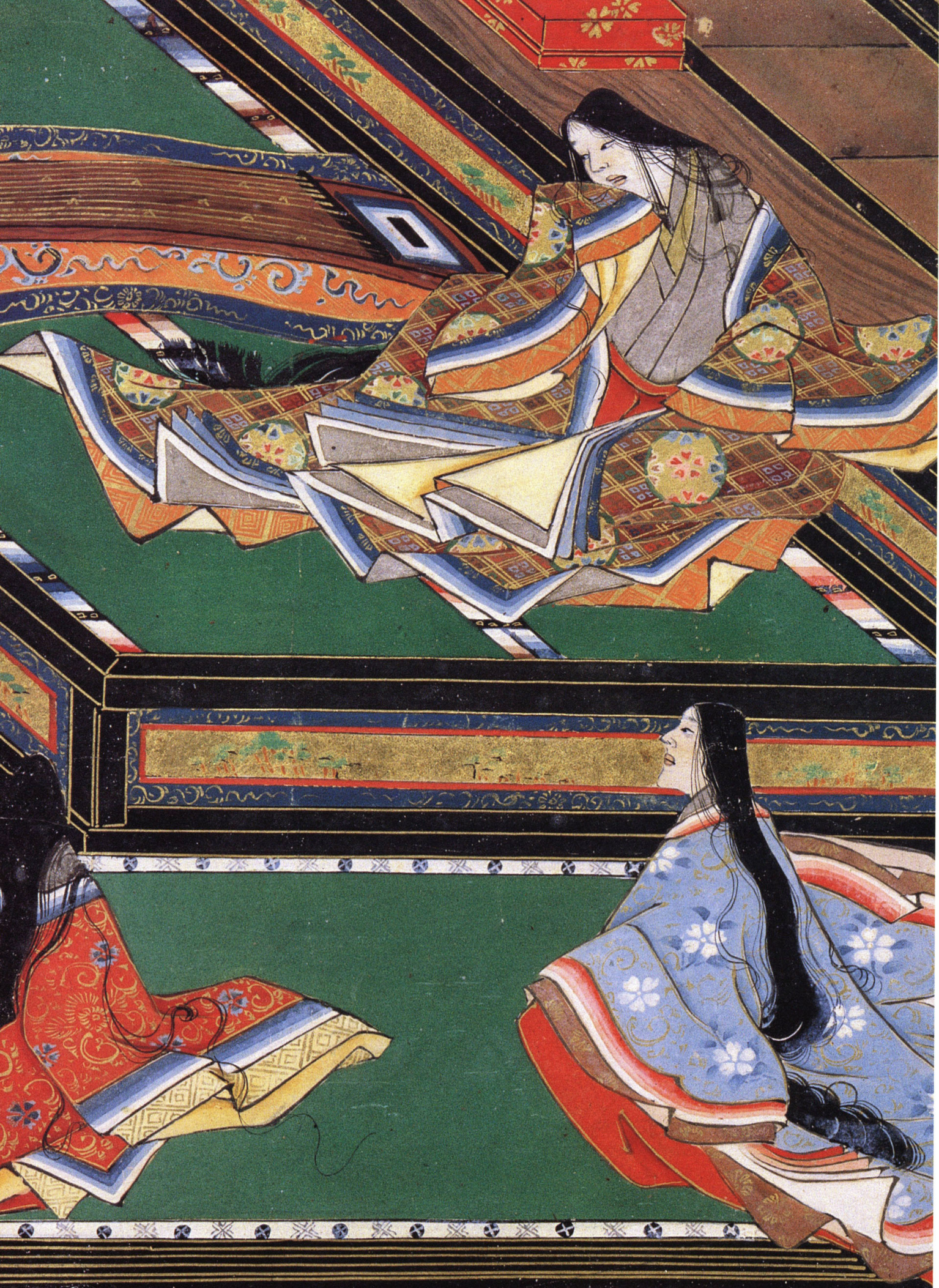
小栗は美濃国の垂井のおなこと社に神として祀られる 第15巻 第18段



照手も近くに縁結びの神として祀られる 第15巻 第19段

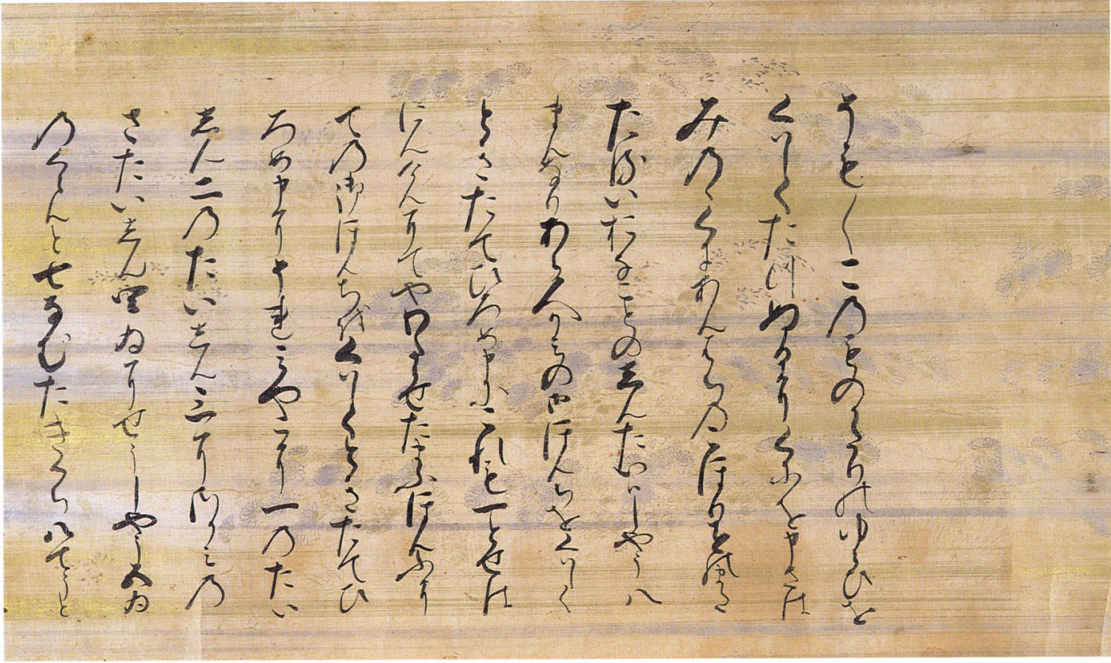




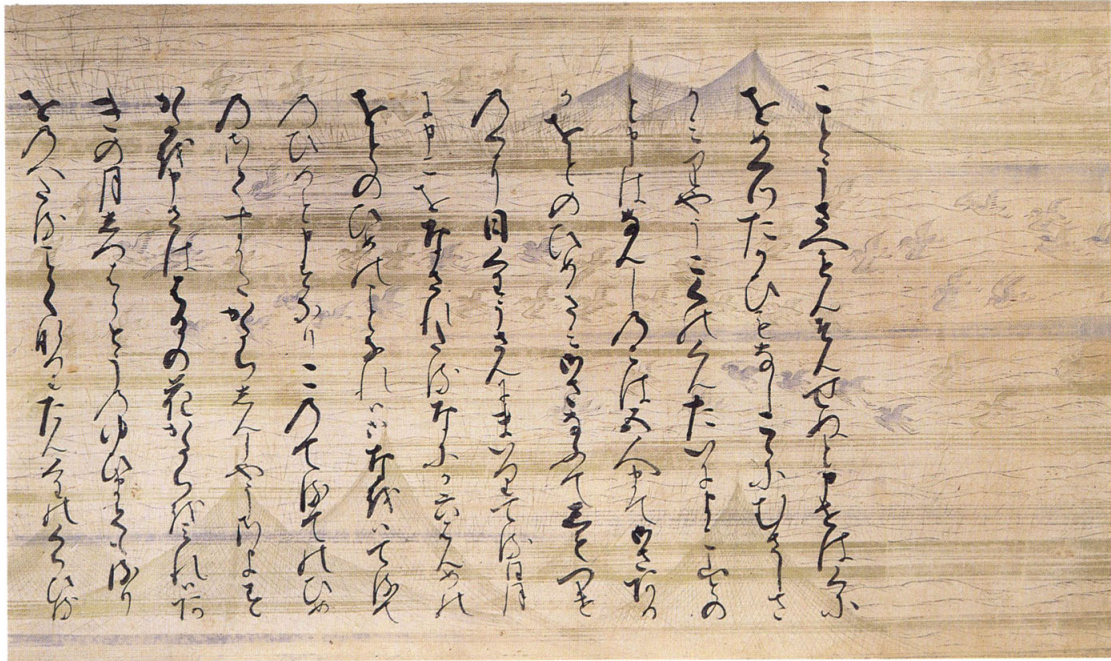




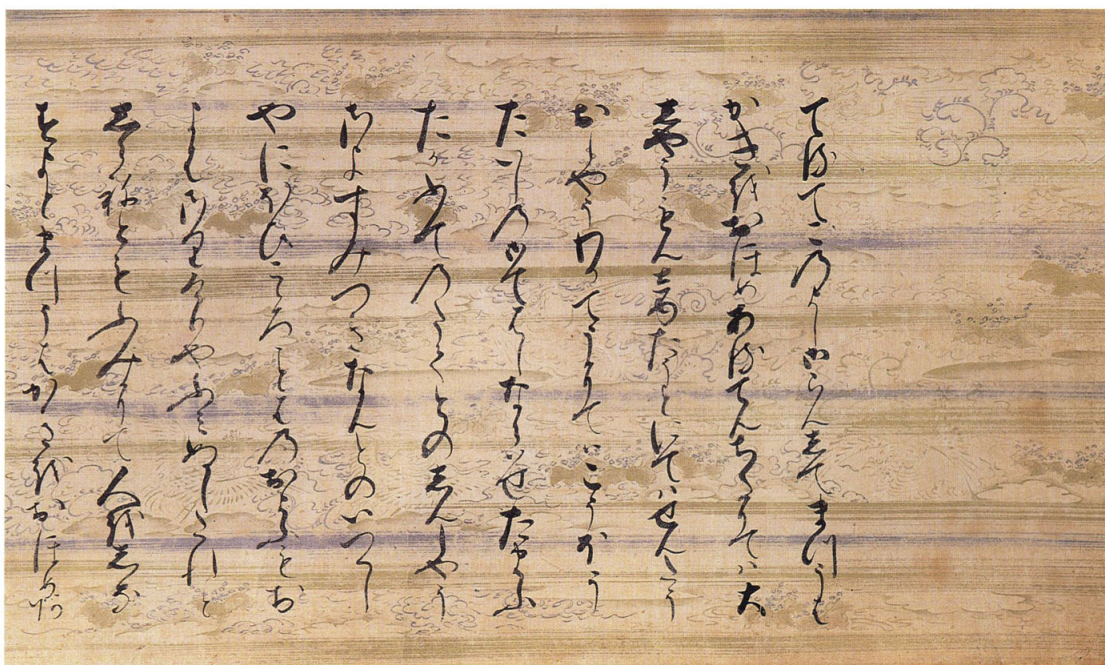




第1卷 第1段



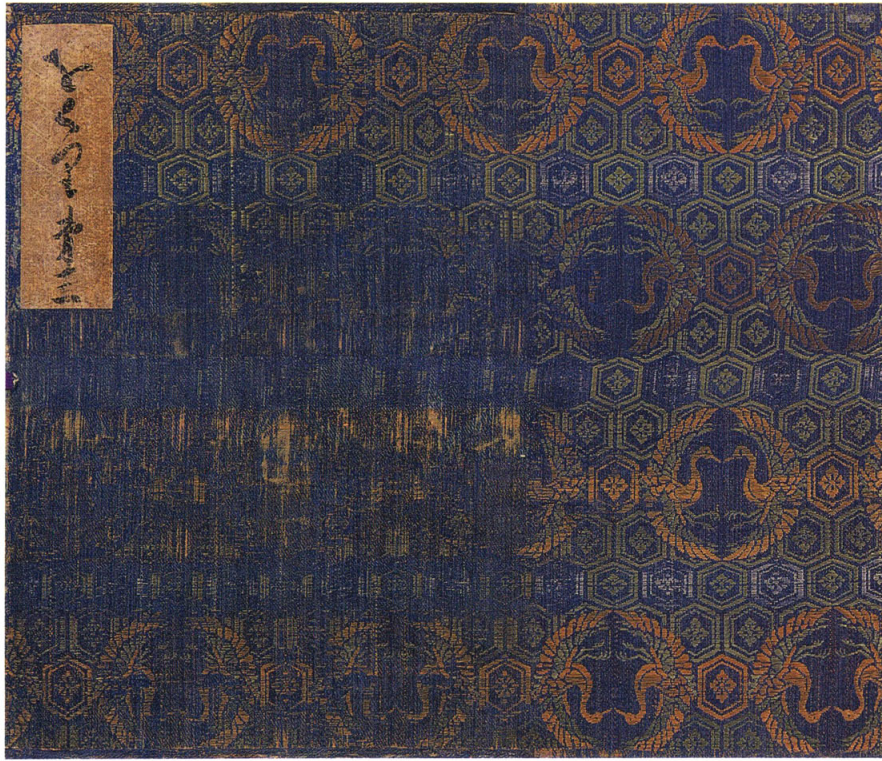
第4卷 第1段



第5卷 第1段



第11卷 第1段



表紙



巻姿

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

をくりー伝岩佐又兵衛の小栗判官絵巻

三の丸尚蔵館展覧会図録No.8

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 印象社

翻訳 鶴岡厚生

発行 宮内庁

平成七年七月八日発行

©1995, Museum of The Imperial Collections